自然体験活動リスクマネジメント人材育成事業

社会教育課

１　自然体験活動リスクマネジメント人材育成事業とは

この事業は、多くのリスクが想定される子どもたちの自然体験活動を、安全で適切に実施するために、自然体験活動に携わる市町教育委員会、公民館、社会教育関係団体等の事業担当者や指導者等を対象に、自然体験活動におけるリスクマネジメント研修を実施し、新たなリスクに対応した安全管理等の専門的な知識・技術を習得することにより、安全で適切な自然体験活動の実施に役立てるとともに、リスクマネジメントの必要性に関する資料を作成・配布することで、その普及・啓発を図るものです。

２　自然体験活動リスクマネジメント研修

（１）実施要項（以下の要項で実施されました）

ア　日時　※いずれか１回を受講

第１回：７月　３日（土）13:00～16:30

第２回：７月 11 日（日）13:00～16:30

第３回：７月 15 日（木）13:00～16:30

イ　受講方法

オンライン（Ｚｏｏｍ）で受講

ウ　講義内容

①　「自然体験活動におけるリスクマネジメントの基礎」

②　「リスクのチェックポイント」

③　「事前対策の重要性（事故事例より）」

図１　研修の募集チラシ

エ　日程

12:50　13:00 13:05　　14:05　14:15　　15:15　15:25　　16:25 16:30

受付	開会(5)	講義①(50+10)	休憩(10)	講義②(50+10)	休憩(10)	講義③(50+10)	閉会(5)

（２）講義内容

講義は図２のテキスト「安全管理ハンドブック」を使用して行われました。経験豊富な講師の先生の体験談や、講師の先生の質問に対する参加者の発表、Zoom の機能であるブレイクアウトセッションを用いた話し合い等が講義中にあり、オンラインでの開催ではありましたが、参加者同士のつながりが感じられたあっという間の３時間でした。図３は講義中の画面です。

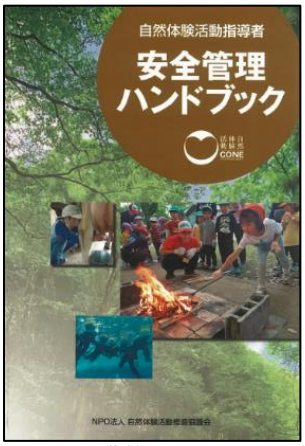

図２　講義用テキスト

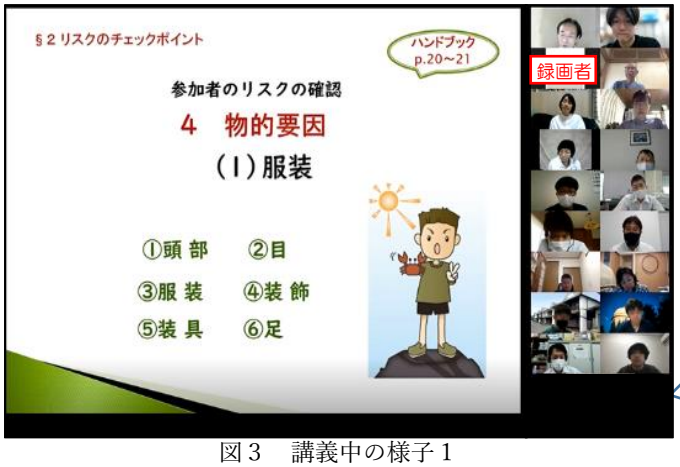

図３　講義中の様子１

１人１台端末で
カメラをオンにして
ご参加いただきました。
皆さん、真剣です。

ここで、「安全管理ハンドブック」をもとに、講義の一部を振り返ってみましょう。

講義①　「自然体験活動におけるリスクマネジメントの基礎」

リスクマネジメントにおける、基本的な考え方や、基礎用語の解説が丁寧に行われました。右の図４の「ハインリッヒの法則」などを用いて、ヒヤリとしたことやハッとしたことが重大事故につながるという認識を持つことの重要性と、事故のきっかけとなる危険要因に気付くトレーニングの必要性を確認しました。

図４　ハインリッヒの法則

講義②　「リスクのチェックポイント」

危険要因の分類や活動の計画、実施それぞれの段階でのチェックポイントを確認していきました。思いついたものから羅列するのではなく、要因ごとに（人的要因、物的要因、環境要因など）整理することで、見落としがなくなります。「丁寧な洗い出し作業により、忘れがちなことを再確認できてよかった」という事後の感想も見られました。

右の図５のスライドは人的要因の分類についてのプレゼンです。子どもは特に各自の運動能力などの観点だけでなく、感情も大きく影響することを教えていただきました。

図５　講義に使用されたスライド

講義③　「事前対策の重要性（事故事例より）」

実際に起きた事故事例をもとに、「どうすれば事故が防げたのか」というテーマで、意見を発表し合いました。

図６は講義中の様子ですが、前時の講義②「リスクのチェックポイント」を踏まえ、様々な意見が活発に出ました。

さて、皆さんは「Hug-a-tree」という道に迷った時の言葉を御存知でしょうか。子どもが陥りやすい低体温症から身を守ると同時に、不安を和らげてくれるそうです。

図６　講義中の様子２

ここでテキスト「自然体験活動指導者安全管理ハンドブック」から問題です。

皆さんも、講義で扱われた「危険要因に気付くトレーニング」にチャレンジしてみましょう。

下の図７および図８の絵の中にある番号は危険が潜んでいるところを示しています。いくつ説明できますか？

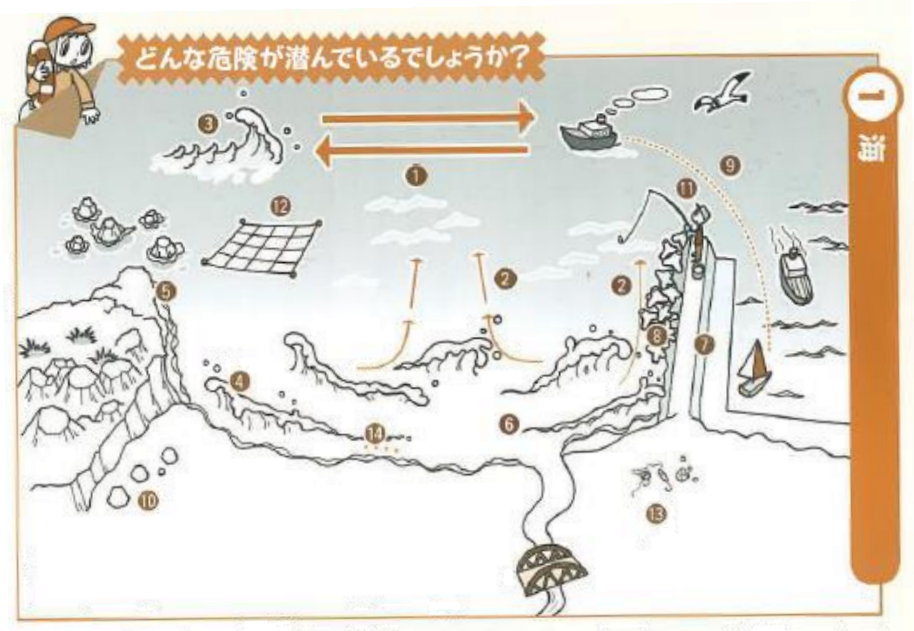

図７　危険要因に気付くトレーニング　（海編）

図８　危険要因に気付くトレーニング　（野外料理編）

もし、答えを知りたい方がいらっしゃいましたら、社会教育課（浦辻）までお問い合わせください。

（3）事後アンケートについて

研修に参加された方に研修を受けての事後アンケートを行いました。3回の研修会で、参加者 68 名中 48 名から回答がありました。集計結果と、その理由などを一部抜粋します。

a　講義1「リスクマネジメントの基礎」について(図9)

【結果】　①　とても参考になった　62%

②　参考になった　38%

【理由】　・　ＩＣＴ機器の発達などによりリスク管理の責任の所在が変化していることを知った。

・　リスクは身体的なことばかりだと思っていたが、心理的、社会的なことなど幅広く存在することを知り、よりマネジメントの必要性を感じた。

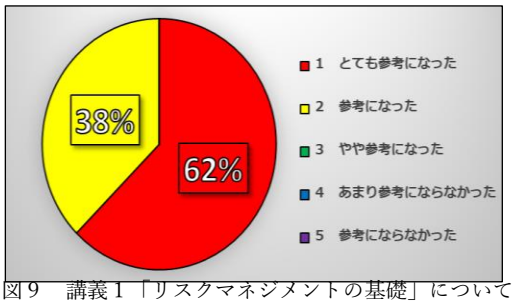

図9　講義1「リスクマネジメントの基礎」について

b　講義2「リスクのチェックポイント」について(図10)

【結果】　①　とても参考になった　63%

②　参考になった　35%

③　やや参考になった　2%

【理由】　・　固定概念を捨てる必要があると感じた。

・　宿泊型の催事運営おいて、子どものトイレの話題（和式が使えないなど）が、納得感があり参考になった。

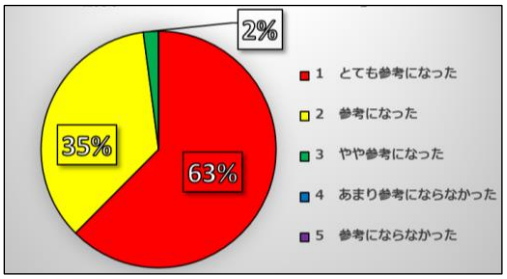

図10 講義2「リスクのチェックポイント」について

c　講義3「事前対策の重要性」について（図11）

【結果】　①　とても参考になった　73%

②　参考になった　25%

③　やや参考になった　2%

【理由】　・　企画した行事が「面白い」か「参加希望者が多いか」ということに気を取られていたことに気が付いた。

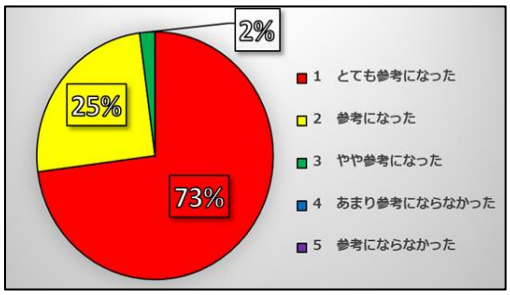

図11　講義3「事前対策の重要性」について

・　Zoom の機能であるブレイクアウトセッションを使用して話し合いを行ったことで、様々な立場で活動される方がいたのでとても参考になった。

d　開催時期について(図12)

【結果】　①　とても良い　42%　②　良い　48%

③　やや良い　10%

【理由】　・　夏休み前の実施は良い。

・　子ども、子ども連れの家族を対象にした活動の増加の前で良かった。

・　平日と休日の開催日から選択できたのが受講しやすかった。

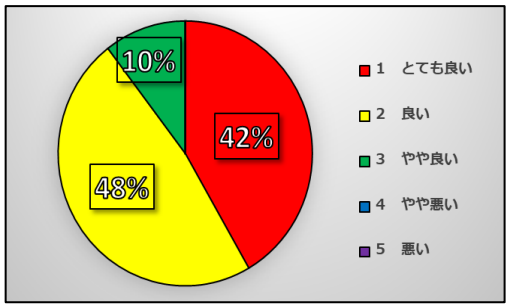

図12　開催時期について

・　もう少し早い時期にできれば事前対策について具体的に進められる。

e　開催方法について(図 13)

【結果】　①　とても良い　50%　②　良い　　44%

③　やや良い　　４％　④　やや悪い　２％

【理由】　・　Ｚｏｏｍの通信トラブルもなく、音声も聞き取りやすかった。

・　Ｗｅｂということで内容に伝わり方に不安があったが、ブレイクアウトセッション機能などが活用され、良かった。

・　コロナ禍ということでオンラインの開催となったが、実際の活動の中で学ぶことができれば良かった。

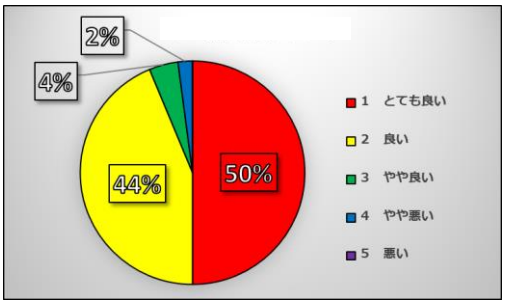

図 13　開催方法について

f　感想

・　座学と事例共有（ブレイクアウトセッション）で学習内容の理解を深めることができた。

・　頭で理解してもアウトプットできないことが多い。場面訓練が有効であるが、今回のブレイクアウトセッションを用いた受講生同士で意見を出し合う時間は効果が高いと感じた。

・　活動の「目的」が明確であれば、運営方法にぶれが生じないと思う。「活動」のための活動になっていないか、気を付けて実施していきたいと思った。

・　研修を受けることにより、新しい情報や知識を得ることができ、よりリスクに対応できるようになると思う。研修の大切さがわかった。

・　団体によってリスクに対する認識の程度や幅が様々だと感じた。このような研修を通して、すべての団体がレベルアップできるとよいと感じた。

３　リスクマネジメントに関する普及・啓発資料の作成・配布について

（１）資料の作成

研修の内容や研修を活用した実践事例等をまとめ、県社会教育課が作成します。

（２）資料の配布先

参加者に加え、市町教育委員会、公民館、社会教育関係団体等に配布します。

４　おわりに

研修には、県内各地から様々な立場の方に参加いただきました。この研修をきっかけとして、自然体験活動に携わる方々がリスクマネジメントの必要性を認識し、その啓発に努めていただくことを期待するとともに、引き続き自然体験活動におけるリスクマネジメント人材の育成に取り組んでいきます。

＜参考・引用文献＞

ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会事業委員会（編）『自然体験活動指導者安全管理ハンドブック』東京：ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会（2020）